

災害時のケースに学ぶカトー折りのワークショップ

～水を飲む、トイレにする、寝る～

カトー折り考案者 加藤祐一

2008年に自分でコピー紙から袋をつくる方法を思いつき、5年が過ぎました。今も毎日のように使っている折り方です。ぜひ、これを覚えていただき活用してみてください。

災害が起きるまえに自分の感触や直観を大切にしながら行動する習慣をつけておきましょう。カトー折りは手に紙の感触を感じながら折っていきます。紙の質と大きさ、使い道によって同じ折り方であってもその感触は変わります。同じルールでもその状況によって例外や想定外なことがあることをこのワークショップから学びます。

カトー折りとは紙をよく観察(対話)しながら折っていき、袋や箱をあつという間に完成させていく手法です。折った答えがすぐにわかる。(うまくいかなければ元に戻すのです。)これは問題解決する手法のトレーニングにもなります。この世界の自然の摂理、物理学がこの紙からも学ぶことができます。ちょっと垣間見る。災害時だけでなく、日頃の自分に降りかかってきた事柄をどのような姿勢で対処するかというケースを単純な折って使う世界でワークショップしてみましよう。

A 紙を折っただけ、ある働きが生まれる実験

- ① 折っただけで強く繋がる紙.....接着剤より強く、速く繋がる
- ② 繋ぐやり方から学び、紙をリングにする...強いリングができる、何に使えるか?
- ③ 3つの面を繋ぎ、箱にする.....離れなくなる面、敷いた紙がおぼんになる。

B 紙を袋にする実験

- ① 折っただけで袋ができる.....水を入れても漏れない?
- ② 入れやすく、閉じて、また開ける.....チャック付袋、何に使えるか?
- ③ 片付け、調理、仕舞う、保管.....それが緩衝材や枕、隠し袋、トイレにもなる。

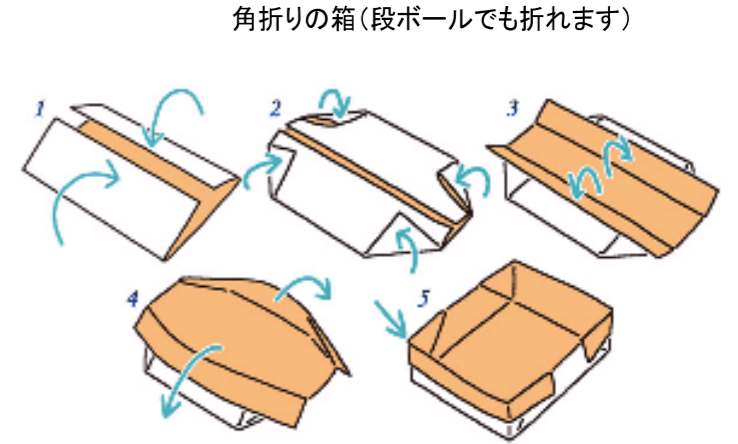
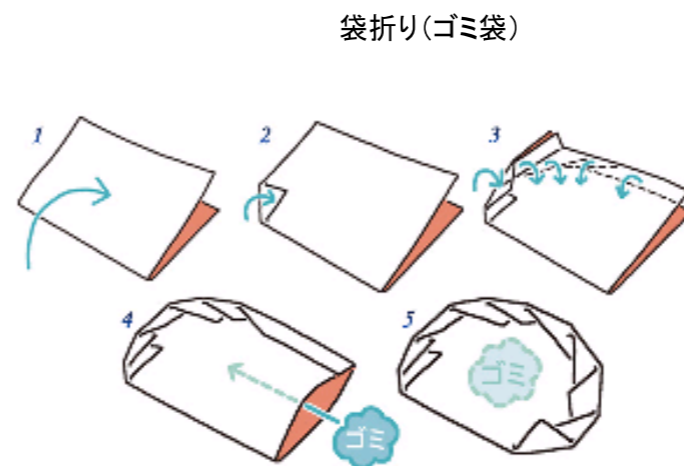
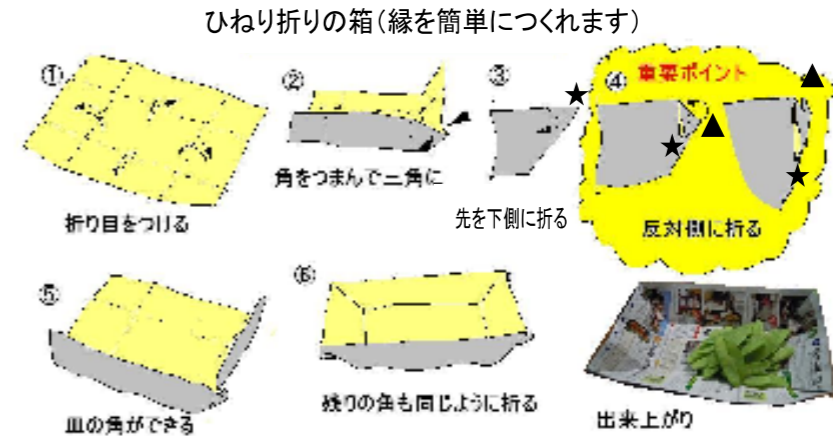
C 箱にする実験

- ① 折っただけで箱にできる.....箱に耳がなく、好みの形になる。
- ② 同じ折り方で長方体から立方体.....材質問わず、クリアファイルでもOK
- ③ 重ねて折れば、同じ箱になる.....弁当箱、おぼん、マグカップ、食器になる

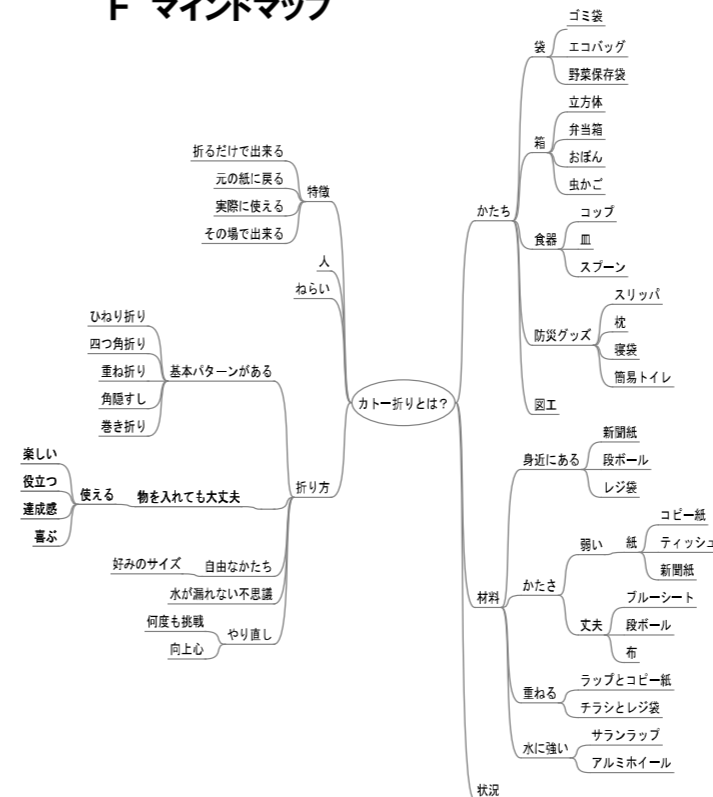
D 今回、このワークショップで非常時に今すぐ役立つアイテム

- ① 紙で折ってつくるスプーン.....熱い汁物ですくえる、さます、火傷しない
- ② ハンカチのポーチ、帽子、雨除け.....角を結ぶだけの便利アイテム
- ③ 新聞紙のスリッパ.....意外!すぐに自分の足にぴったりのスリッパができる

E サポートする基本の折り方



F マインドマップ



◆カトー折りの経歴：FM横浜出演、読売新聞に全国掲載、実教出版の高校テキスト掲載、実用新案取得
 ・活動：中央環境ネットワーク(教室) / 持続可能な社会をつくる元気ネット(展示) / 上田青年会議所(教室) / 世田谷区消費生活センター(講演) / 日本橋小学校(展示) / 中央区国際交流(教室)

◆プロフィール 加藤祐一(かとう・ゆういち)
 1956年9月11日生まれ(B型)
 「eco japan cup2009」で「広げるエコ賞」、「eco japan cup2011」で「エコチャレンジ賞」を受賞する。
 現在、「カトー折り」の折り方や活用法について執筆にむけてまとめている。

◆メールアドレス：kato-hirakegoma@aqua.email.ne.jp
 【ブログ】http://blog.goo.ne.jp/kato911/